

# 拉致生存情報 政府封印

## 14年、北朝鮮から伝達

拉致問題を巡り北朝鮮が二〇一四年、日本が被害者に認定している田中実さん  
失踪当時(三〇)ら二人の「生存情報」を非公式に日本政府に伝えた際、政府高  
官が「(二人の情報だけでは内容が少なく)国民の理解を得るのは難しい」とし  
て、非公表にすると決めていたことが分かった。安倍晋三首相も了承していた。  
複数の日本政府関係者が明らかにした。もう一人は「拉致の可能性が排除できな  
い」とされている金田龍光さん(三〇)ら。――関連③面

### 神戸の田中さんら2人



田中実さん



金田龍光さん

日本では身寄りがほとんどなく「平壤に妻子がいて帰国の意思はない」とも伝えられ、他の被害者についての新たな情報は寄せられなかった。被害者全員の帰国を求める日本政府にとって「到底納得できる話ではなく、国民の理解も得られない」(高官)と判断した。

菅義偉官房長官は共同通信の取材に「今後の対応に支障を来す恐れがあることから、具体的内容について答えることは差し控える」とコメントした。

二人の生存情報を日本政府が入手して五年余り。日朝交渉に進展がない中、拉致問題解決を「最重要課題」と位置付ける安倍政権が非公表を続けている判断が適切かどうか問われ

る。二人はいずれも神戸市出身で同じラーメン店の店員だった。

両国は一四年五月、拉致被害者の再調査などを盛り込んだ「ストックホルム合意」を取り交わした。北朝鮮はこの前後、田中さんと金田さんが北朝鮮に入国し妻子と共に暮らしていることが日本政府に知らされたことが既に判明している。

その後、北朝鮮はミサイル発射や核実験を繰り返し再調査も中止され、日本政府は二人に面会できなかつたが、両国の接触は水面下で続いていた。北朝鮮は田中さんについて一四年までは「未入国」としていた

菅義偉官房長官のコメント  
ト 北朝鮮による拉致被害者や拉致の可能性が排除できない方については、平素から情報収集に努めているが、今後の対応に支障を来す恐れがあることから、具

が、一転して認めた。金田さんについては言及していなかった。

田中さんは一九七八年六月、成田空港からウィーンに向け出国。その後連絡が

とは差し控える。政府としては、拉致問題の全面解決に向けて、拉致被害者としての認定の有無にかかわらず、全ての拉致被害者の安全確保および即時帰国のために引き続き全力を尽くす考えだ。

取れなくなった。北朝鮮の元作業員とされる男性(故人)が「作業員だったラーメン店主に誘い出され、ウィーン経由で連れて行かれた」と告白し、拉致疑惑が

発覚。政府が〇五年に被害者に追加認定した。

在日韓国人の金田さんは七九年十一月ごろ、田中さんに会うため「東京に打ち合わせに行く」と周囲に話した後行方不明になった。出国記録はない。直前の夏ごろに「オーストリアはいい所だ。仕事もあるのでこちらに来ないか」と書かれた差出人が田中さん名義の手紙を受領していた。